

教員の負担軽減について

教員の仕事が大変なことだということは、ここまで述べてきましたが、それを軽減する為には、どうしたらよいかを考えてみたいと思います。もちろん、私が提言しても、何の効果もないのですが…。現在、文科省がやろうとしていること(部活動支援員制度・印刷や名簿を作る人を派遣する?)は、効果があるものとは考えられないので、私なりの理屈で述べてみます。

※ 授業時数

授業時数については、学校ごと教科ごとに違ってきます。週に24時間を越えて授業をしています。すべての時間で授業をすると週29時間ですから、1日に空いている時間は1時間もないということになります。空き時間も提出物をチェックしたり、生徒が書いてきた日記に返事を書いたり、3年担当であれば、高校の先生の対応をしたり、それぞれの分掌の仕事をしたりとすぐに終わってしまいます。お休みの先生や出張の先生がいれば、代わりに教室に行かなければいけません。元々の持ち時間数を減らすことが負担軽減になると思います。そのためには、**教員の数を増やすことが必要**です。高等教育の無償化よりも、まず、小中学校の教員の数を増やすことを考えてほしいものです。

※ 部活動

部活動については、前にもつぶやいたと思います。私は、部活動は、「趣味」くらいに考えて取り組まないとやっていけないと思います。仕事としてやったら、やってられません。朝練習、放課後練習に手当はありません。休日の練習は、平成28年度だと3時間以上やって2700円でした。練習試合で8時間位やっても、大会とかで遠方まで行って(朝6時に家を出て夜8時頃帰宅して)もこの額です。時給にするとどうでしょう…。もちろん旅費も昼食代も自腹です(以前は、保護者会より好意で大会時のお弁当を出していただいていたのですが、数年前から保護者会費にも管理職の監査が入り、禁止になりました)。つまり、自分でお金を払って部活動をやっているようなものです。それでも、私がつとめ始めた頃は3時間以上で700円だったと思うので、最近、少しずつ待遇は改善されつつあります。

それでも、私には、前につぶやいたように、部活動は、教育活動に大きな役割を果たしていると思うので、技術指導は外部指導者にお願いすることがあっても、簡単にすべてを外部の指導者に任せてしまうのはよくないと思っています。

※ 道徳・総合的な学習の時間

私が負担に思っていたのは、「道徳」とか「総合的な学習の時間」です。教科の授業は、1つの授業について計画を立てれば、それが、持ちクラス4～5クラスで使用することができます。しかし、「道徳」や「総合的な学習の時間」は1時間の為に準備をして、1時間授業をすれば、次の週には、また、次の題材についての準備をしないといけないということです。「道徳」だったら、1時間授業をして、生徒の感想や意見を書かせれば、それをみて、赤ペンを入れる手間もかかります。これを毎週こなしていくことは、大変なことです。しかも、道徳は基本的に担任に任されているため、自分の頭で消化して授業にはい

らないといけません。道徳が教科化されるわけですから、私は、**専科制度**にしてほしいと思います。道徳の授業は、道徳の先生がやる。そうしないと、今度は道徳の評価も出す(おそらく、文章での表記)わけですから、**担任の負担はかなり増す**と思われます。

「総合的な学習の時間」は、早く**撤廃してほしい**ものです。これが始まった頃は、「調べ方を学習する」とかいわれて、自分でテーマを決めさせて、調べさせて、まとめさせて・・・とやっていましたが、パソコンは学校に十数台しかなく、図書室にもそんな専門書が多くあるわけでもなく、家で調べてくるものを持ってきて、学校でまとめるとかいても、忘れてきた生徒は、何もせずに1時間・2時間が過ぎていく・・・という最悪の時間です。いくつかの学校が素晴らしい実践をしていますが、ほとんどの学校では、それが成り立たない。今の時代は、インターネットが簡単に扱える時代ですから、「調べ方の学習」は技術の時間で十分であると思います。しかも、この総合的な学習の時間は、学年で統一して行うことがほとんどなので、この時間の計画は学年会で話し合いを持って、準備をして・・・、と大変な負担になっているのが現状です。(現実問題として、学年会は月に1回程度しかもてません)

※ 調査・研修

学校で、事件が起こり、マスコミで取り上げられると、文科省、教育委員会から、中学校に文書がおりてきます。内容は様々ですが、だいたい、その学校での「現状を調査しなさい」ということ。次に「教員への研修」「教員への指導」をしなさいというものが多いようです。

例えば、どこかの県で「いじめ」がきっかけで事件が起きたとします。すると、各学校でいじめがないか調査をするようになります。生徒向けアンケート、保護者向けアンケートをとります。これがどんどん増えていき、年に1回→学期に1回→月に1回とアンケートをとり、何か書いてきたものについては、担任・学年で処理をしていきます。また、いじめへの対応につて「研修会」がもたれます。

もちろん、必要なこともありますが、一度始まったものは、機械的に例年続いていきます。「体罰事件」「飲酒によるトラブル」「お金に関わるトラブル」等々問題が起こるたびに調査、研修が始まり、年々それが増えていきます。

時間に余裕があるのであれば、それも価値があるのかもしれませんが、多忙な日々の中で、かなりの負担になります。週に5時間の日が1日しかなく、生徒会・委員会すら6時間の日に行ったり、昼休みをなくして活動をしているわけですから・・・。

もちろん、調査といっても、3年で進路を担当していて、生徒の進路希望調査とか、大変でもやらなければいけない調査もありますし、すべての調査がダメというわけではないのですが・・・。もう少し、効率的に現場の状況を考えて、指示をだしてもらいたいものです。

※ 教育実習生の受け入れ

毎年、その中学校の卒業生や国立大学の教育学部の生徒が教育実習に2週間～5週間くらいの期間やってきます。もちろん、我々も教育実習をして教員をやっているわけですから、その指導教官をやることになっても、仕方がないと思います。しかし、教員の立場からだと、実習生を担当すると、ただでさえ忙しいところ、更に、実習生の指導をしたり、

実習ノートにコメントを書いたり、指導案作成の指導をしたりと、その期間、大変な思いをすることになります。実習生にもよりますが、あまり、熱心でない実習生を受け持つと、実習期間が終わった後に、もう一度、その内容に戻ってやり直さなければいけないこともあります。

何でも、文科省は、教員を目指す大学生を小中高校にインターンシップとして数ヶ月～1年間という長期にわたって派遣すること考えているようですが、いったい誰がその相手(指導)をするのでしょうか？教員の勤務状況はブラック企業だというのに、更に、大変な仕事を増やしていこうというこの発想、どうにかならないのでしょうか？ただでさえ、初任1, 2年の先生方が多くなって、そちらへの指導・助言をしなければいけないときに、大学生の指導まで、やっていられないと思いますが……。

MCD